

《健康だより》^{よう} かせ様感染症の全国的流行について

環境保健部 平安山 智子

日本全国規模でさまざまな感染症の同時流行が、日本医師会や日本学校保健会より警鐘されています（10/17）。かせ症状を示すものだけでも、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、ヘルパンギーナ、季節性インフルエンザ、ライノウイルス、エンテロウイルス、溶連菌（一部地域）、新型コロナなどがあります。

原因としては「免疫負債」が想定されています。コロナ禍の期間は、誰しもマスクや手洗いなど感染対策が徹底されていたので、各種の病原性ウイルスと遭遇する機会が減り、免疫力を獲得できなかった状態が続きました。コロナ禍による規制がすべて解除され、人流や三密の環境に遭遇する機会が増え、手洗い・手消毒やマスク着用の機会が減って、免疫力がないのに病原性ウイルスに接触したり取り込む機会が増加したことによるとのこと。また、10月に入ってからの日中と朝夕の激しい寒暖差も流行に拍車をかけているとのこと。

（秋の花粉症や季節性の喘息の時期とも重なり）、「せき止め薬」、「たん切り薬」、「解熱鎮痛剤」の処方薬や市販薬の不足や入手困難が各地で起こっており、政府が供給を増やす対策に乗り出していますが、当面は供給不足が解消されない見通しです。

とりわけ、（高熱や関節痛など重篤な症状がとれないやすい）季節性インフルエンザの集団感染により、全国で学級閉鎖・学校閉鎖があいついでいます。予防接種、手洗い・手消毒や人混みの中に出向く時のマスク着用、三密の回避などの予防行動を心掛けてください。

